

漢字とかなで理解度を高めてみよう！

萩原 義雄

はじめに

「書記伝達」する情報伝達媒体である新聞・雑誌・広報誌が「見出し」や「小見出し」の果たす役割は、時間の短縮、視覚掴みの読みに繋がっていきます。これまで、漢文のみの文章を作成してみても、どこに何がどのように書かれているのかを見抜くには、高い経験と能力を養わないとなりません。右から左にと容易には理合できないことに今気づくためのきつつかけに繋がっているのでしょうか。まして、この「書き手」自身の労力において、ご自身で途方もないことを今回この文章作りを通して実体験したわけです。

ここで、この漢文体の文章を基本にして、幾つかの「見出し」や「小見出し」をこれらの文章につけて見やすくしていきます。ついで、和語の特徴でもある文字修飾語をかな表記やカタカナ表記を駆使してこの漢文体の文章に織り交ぜながら、文章そのものに魅力と精確さを付加し、ここに八〇〇字の文章に拡張し、仕立てていきましょう。

〔閑話休題〕 見抜くチカラ

日本の古典文学を代表する『源氏物語』は、誰しも読みたいと思うもの。どうせ、読むのであれば原文で、精確に読み耽つて、漢学の才にも秀でていた作者紫式部の表現しようとした「ことのは」の凡てを明らかにしてみたい。そう思う人は、ひとりふたりではないでしょう。実際に、句読点も付されていない「変体かな」で書かれた文章を読んでいくと、注釈書にも触れられずにあることばに出会います。古典語ゆえ現代の日本人にも、意味が分からなくなっていることばだといえませんが、例えば、みおつくし 濔標の巻の「わかんどほり」、

左衛門の乳母とて、大貳のさしつぎに思いたるが女、大輔の命 婦とて、内裏にさぶらふ、**わかむどほり**の兵部大輔なる女なり けり。

があります。この注釈書の二つ『河海抄』には、「**わかむどほり**」の兵部大輔 王家無等倫略一説我無等倫又云和漢通略此義無三其謂不可用之」としています。この語の語源は、明確とはなりません。「わかみどほり（若御）」の変化したもので、「とほり」は血統の意か。その他の説では隋書・北史等にある「倭王、姓、阿毎、宇、多利思比孤略」名太子爲利歌彌多弗利」の「利歌彌多弗利」は、『太平御覽』には「和歌彌多弗利」とあり、古代日本語の語は、語頭に「r」音が来ることがありえないこともあつて、「利」は「和」の誤記として、この語の古形を示すものと云われ、「わか」は「王家」の変化とも云うことが『日国』第二版の「わかんどほり」の補注に記載されています。

このことばを最初に国語辞書に採録したのは、大槻文彦『言海』後の『大言海』富山房刊でした。彼は、**わかんどほり**「名」「わかんハ、大上の約転か、或ハ云フ、「若 御子の略轉ト、或ハ云フ、王家ノ音ノ轉ト、とほりハ、系すぢの義 ト云フ」皇子の血統。又、皇族の血統。※源氏物語、廿一、少女 15「わかんどほり腹にて、貴なる筋は、劣るまじけれど」※宇津保物語、 梅花27「御めのと三人、一人はわかんどほりを、二人は大貳の娘」〔四 877 ③〕

と、皇室の血統にある女人という、このことばに語義を施し、語源説を明かにしています。用例も改めて気づかされますが、索引などまだなかつた時代に見事、平安時代の二例を収録していることは、辞書研究者の鑑の真髓を見る思いがします。

ものを書く ― 文章構成 ―

さてさて、話しを元に戻して、「ものを書く」という行為そのもののなかに、この心映えをどうとりえて見るか、二〇〇字が一つの文章段落を構成すると見積もったとき、「起承転結」といった四段落構成が検討できます。さらに、最低限度の一六〇字であれば、五段落が見込めましょう。「五」という数字、決して悪くない数字でしょう。「五」の付く数詞に、「五穀豊穰」「五楽ごがく：琴、笙、鼓、鐘、磬」「五彩ごさい：赤、青、黄、紫、緑」「五節供ごせつぐ：一月七日、三月三日、五月五日、七月七日、九月九日」「五大ごたい：地、水、火、風、空」「五味ごみ：甘、酸、鹹、苦、辛。&「五味ごみ〔仏教〕：乳味、酪味、生酥味、熟酥味、醍醐味」「五大陸ごご：（ご自分で記載してみよう！）」「コンピュータの五大機能ごたいきのう：入力、出力、記憶、演算、制御」などなど『名数辞典』を見るとよからう。私はここでこの五段落を推奨しておきます。

心理学では、関連することばを人は即刻同時に五つまでは覚えておくことができると云います。「こめ【米】、まめ【豆】、むぎ【麦】、あわ【粟】、ひえ【稗】」と……。ですが、これに「黍」を加算するととなると記憶の回路が低下するそうです。実際にお試しあれ。物の名前ですらここに記憶の区切りがあるのであれば、文章の見出しも五つがぞましいのではないのでしょうかというのが私の持論です。

- 一、「序論」話題の提示
- 二、「ロング」素材その一 テンポよくスピーディに鳥の目で
- 三、「アップ」素材その二 ゆったり調和した地上の虫の眼で
- 四、「ロング」素材その三 流れるようにさらりと天地融合して
- 五、「結論」まとめ

このように映画の撮影シーンのように角度を変えて文章を仕立てていくのです。皆さんは「流露りゅうりゅう」ということばを聞いたことがありますか？ 意味は、流れ出てあらわれること。気持ちなどが残るところなくあらわれることを云います。中村正直は『敬字文集』（一九〇三年）巻六・序に「罔不三流露三于吟詠之間」と表現しました。流れの「流露」であり、優しさを曲線としてみせることこの気持ちを忘れずに書くことに専念することになりました。う。そして、一度、身につけたら継続していくことを努めていきましょう。

※「流露」抒発「生成流転」※シャープ自社携帯端末向けダウンロード辞書として文章変換サイト「もんじろう」に侍ことばを収録。

《ことばの実際》

○愛嬌と云うのはね、——自分より強いものを斃たおす柔らかい武器だよ。「夏目漱石『虞美人草』」

★夏目漱石は、明治を生き、大正五年亡くなった作家です。ですが、私たちは書物を通して漱石と友人になれます。実に「個人」ということばは明治一八年にできたことばですが、「個」は、人偏に固と書きます。アイデンティと重なることばです。漱石は個人として思考することの重要性を生涯に亘わたって考え抜いた人でした。『私の個人主義』を読んでみましょう。この「漱石」と云うな名は「枕流漱石」の故事から採った筆名で、江戸時代にはこの筆名を名乗る文士が既に存在していた。この名には負け惜しみの強い人間の表明があります。本名金之助、近年千円札の顔でもありました。漫画家夏目房之助は漱石の孫です。

○他人の話聞かない人間は壁に当たる。けれど、他人の話聞く人間は前に進めないのだ。なにかをしようと
きには、壁に当たること恐れてはいけない。「島田紳助」ご飯を大盛りにするオバチャンの店は必ず繁盛する』
○「未熟な者にはスランプはない」……技術的・精神的に未熟な者ほど「スランプ」に逃避するのが好きだからだ。

〔野村克也』ノムダス 勝者の資格』

○偶然は、準備された精神 (prepared mind) にしかほほえまない「レイ・パストゥール」

《課題》右の「ことばの実際」に示した個々別々の文章四つを一つの内容文章に筋立て五段落文章を構成して一文を書いてみましょう。